



## 教育資料 側面から考える

この教育資料は、クラブレベルのスピーチコンテストで、出場者が3つの論題の中から1つを選び、適切な題目を、堂々と自信を持って話すことが出来るようなスピーチ内容と、どのように関連付ければよいかを考えるとところから、生まれました。同じ原理はクラブ会合のテーマとスピーカーが話したい論題とを関連付ける場合にも応用できます。

側面から考えるとは、「水平思考」または「枠の外側からの思考」とも言われ、型にとらわれない思考パターンで問題を解決する方法です。

忙しくて、それほど多くの解決策があるとは考えないし、あっても到達できないと考えてしまう大人にとっては、「無難な思考領域」（つまり、私たちが論理的な思考過程と考えていること）の外側から物事を眺めることは簡単ではないのです。しかし子供のころは、容易にできました。幼くて歯の妖精やサンタクロースやスパイダーマンなどを信じていた頃は、何でもできないものはないし、何にでも答えはあると思っていました。

問題を克服できそうにないと思われているものにも、多くの異なった解決の可能性があります。この資料の目的は、広い視野で考えること、「試してみる」ことを奨め、間違った答えというものは無く、あるのは間違った態度であるということを理解してもらうことにあります。さらに、他のすべてがうまく行かなくても、家族、友人、或いは我々 ITC-J のクラブの助けやサポートこそが「問題解決」に必要なのだということを理解してもらうためです。

水平思考がうまく出来るようになる過程で、解決に至るまでに、それを邪魔している様々な障害を取り除くことが必要です。まずその障害を取り除き、次に希薄なように見えても、関連性を見つけて、良い解決に結び付けなければなりません。

障害 その 1 : 始める前から諦めてしまうこと。「難しすぎる」・・・「出来るはずがない」・・・「あきらかに不可能だから、最初から解決しようという気になれない」

障害を乗り越えよう：グラスの半分は満たされていると考えて(楽観的に考えて)、厭わずにやってみよう。数秒間考えただけでこれは不可能だと決めつけてしまうのは、忙しくて煩雑な生活をしている人には当たり前のリアクションです。しかし、実はそれと気づかずに、どうしても必要に迫られれば、側面から考えていることがよくあります。例えば、もしレシピにスパゲッティと書かれているけれどそれが手元にない場合は、代わりにマカロニを使うでしょう。もし高速道路が渋滞していたら、他のルートを考えるでしょう。すべての問題には様々な解決法があることを、自分に言い聞かせ、前向きに考える必要があります。

障害 その 2：問題を必要以上に複雑にしてしまうこと。大人は物事を実際よりも難しく考えてしまい、‘論理的’な一連の思考が私たちを間違った方向に誘導してしまいます。

障害を乗り越えよう：まず、簡単な解決法を探しましょう。大人にとってはしばしば、「単純に考える」と「側面から考える」とことは同じです。なぜなら、私たちの頭は自動的にすぐ問題点を捜すことに慣れているからです。大人の 90%は、6 歳の子供の 90%が簡単に答えられる問題でつまずく、ということ覚えておいてください。

障害 その 3：忙しい生活にはあまりにも沢山の邪魔なものがあり、目の前の問題に集中できないと感じること。

障害を乗り越えよう：忙しい生活の中にも、自分が使える時間が必ずあります。湯船につかっている時、バスを待っている時、芋の皮をむいている時、また、庭で雑草を抜いている時、心を自由にさせてより幅広い分野の違う考え方を持つようにできる機会はたくさんあります。（空想にふけることだけが唯一の選択肢ではありません）

障害 その 4：頑張り過ぎること。解決策を見つけようと頑張り過ぎて、悪い結果になってしまう例が多くあります。夜眠れないことを心配しすぎると、かえって眠れません。眠っても眠れなくてもどちらでもかまわない、と思うようにしないと、眠ることは出来ません。「作家のスランプ」はよく聞くグチです。締め切りがすぐそこまで迫った時パニックが始まり、思考力はストレスで閉ざされてしまいます。

障害を乗り越えよう：休みましょう！ しばらくの間、考えを全く違う方に向けましょう。脳が疲れると、すべての問題に打ち勝つことができなように思えます。でも、リラックスしてリフレッシュすると、考え付くことにびっくりします。例えば、クロスワードパズル愛好者がパズルを半分も解答できなくて、解けていない箇所に長い時間をかけて一生懸命考えていたとします。でも、パズルからいったん離れ、しばらくしてから再び挑戦すると、なんと驚いたことには、休憩前には絶対無理だと思っていた問題が、あっという間に解答できるのです。

障害 その 5：最善と思われる策をとり、さらにこれまで述べてきた障害をすべて取り除いた後でも最後の解決に至らず、どうしても無理だと感じることに。

障害を乗り越えよう：「三人寄れば文殊の知恵」や「大勢でやれば仕事は楽になる」という格言を覚えておきましょう。電話をかけたり、メールを送ったりしましょう！ 家族に聞いてみましょう！ たとえその人たちが最終の答えを出してくれなくても、全く違う見方があることを示してくれます。あなたの側面からの考え方につながるものを補足して、あなたが自分で最終の結論に達することができるようにしてくれるでしょう。誰でも人の助けが必要ですが、往々にしてそれを求めることに抵抗を感じるのです。人はアドバイスを求められたら嬉しいものです。ただ、忘れないでほしいのは、もしそのアドバイスを受け入れたくないなら、受け入れる必要はないということです。

## 側面から考える訓練

まず、問題と、望まれる結果とをつなぐものを見つけましょう。

「六次の隔たり」の法則によれば、地球上のすべての人は、わずか 5 人の仲介者がいれば、その他すべての人とつながることができます。

まだ証明されていなかったこの理論が、数十年も経って実際にテストが実施されました。—アメリカの中西部のある人物とマサチューセッツに住む見知らぬ人物をつなぐには、少なくとも 100 人の仲介者が必要だと予測していました。ところが驚いたことに、これは本当に六次の隔たりしかなかったのです。(中西部の人たちが、ある見知らぬ他人の名前と職業そしておおまかな住所を教えられて、自分の親しい間柄の人で、その人を知っていそうな人に荷物を送らねばなりません。そして、その知人もまた同様に次に荷物を送っていく・・・という実験です。) 問題解決にも同様の「連結」方法をあてはめることが出来ます。

一つの言葉から連想される言葉を答えるという「連想ゲーム」をたいていの人はよく知っています。

例えば：

犬 — 猫  
電気 — ガス  
高い — 低い

これを少し変化させた練習は、無関係にみえる言葉を回答するやり方です。

例えば：

犬 — 香水  
電気 — ほうれん草  
高い — 速い

いかにこの練習は難しいか、或いはほとんどの人が、いかに苦勞して与えられた言葉に対して、関連性のないように見える言葉を思いつくか、興味深いことです。頭は、関連した言葉をまず意識の前面におし出すようにできているのです。

さて、もう一歩進んだ練習をしましょう。最初の言葉と関連性のない答えをつなぐものを探しましょう。

例えば：

犬 — 香水：「香水」と「嗅覚」は同義語であり、犬はとても鋭い嗅覚を持っています。  
電気 — ほうれん草：「電気」はパワーの一種であり、ポパイは「ほうれん草」を食べてパワーの源にしました。  
高い — 速い：飛行機は「高い」空を飛び、とても「速い」輸送手段です。

このような思考プロセスを経て、他の人が選んだ論題に関連性をもたせて、自分が上手に熱意を持ってスピーチができる題目を選ぶことができるのです。

例えば：

スピーチコンテスト出場を予定している人が、鼓舞するスピーチをしたいと思っています。スピーチの内容は、ある高齢者が抱いている目標—単独で世界一周をして、困っている人のために資金集めを始める、というものです。

与えられた3つの論題は：歴史；偶然；歳月人を待たず

考えられる題目：歴史 — 「今日の達成は明日には過去のこと」

歳月人を待たず — 「やる気のある人は先延ばしにしない」

忘れないでほしいのは、間違った答えなどはないということです。しかし大事なことは、スピーチの内容が論題と題目に関連性があるということです。ちょっと時間をとって、「別の角度から考える」ことは、面白くてためになるはずです。ですから次にあなたが問題の解決が難しいと思った時には、頑張っ  
てこれらの障害を乗り越えてください！

資料 POWERtalk International Education Feature C99

2023年1月 ITC-J 第41期 教育資料委員会 改訂